

タンチョウ名盤除幕式

タンチョウのひなの名前が決定



写真上：ヒルタン(左)とマニタン(右)に
名称が決まったタンチョウのひな
写真左：披露された木製の名盤

市政トピックス TOPICS

7月に誕生した2羽のひなの名称が公募で決まり、蒜山タンチョウの里で12月24日、名盤の除幕式が行われました。地元園児や関係者が見守る中、太田市長、石賀久真庭観光連盟会長ら4人が、真庭産のヒノキで作られた名盤を揭幕しました。ひなの名称には市内外から261人が340点を応募。選考委員会で選考され、雄は「ヒルタン」、雌は「マニタン」という蒜山地域、真庭市にちなんで付けられた名称に決まりました。

12月22日、「つなげよう、支えよう森里川海」が、森里川海シンポジウムin真庭」が、勝山文化センターで開かれました。これは平成26年12月にスタートした環境省のプロジェクトの一環で開催されたもので、全国約50カ所での開催を計画しており、真庭が26カ所目。銘建工業株中島浩一郎代表取締役社長らの基調講演、「プロジェクトの発展・具体化していくために」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

つなげよう・支えよう森里川海 地域のあしたを考える



パネルディスカッションに聞き入る参加者



協定を締結した事業者の代表者と太田市長(左から3人目)

道路損傷等による危険箇所を情報提供 道路の安全を守るために

12月18日、市役所本庁舎で、岡山県建設業協会真庭支部(39社)と岡山県タクシー協会真庭支部(7社)、タクシー2社、一般廃棄物収集運搬等2社と「道路損傷等による危険箇所の情報提供に関する協定の締結式」が行われました。市道は1190キロの延長があり、道路パトロールだけでは危険箇所を把握することが難しいため、日常的に市道などを走行している事業者に、危険箇所を情報提供していただきます。



市政に関する動きの一部を紹介します

12/25 生ごみなどの資源化を

新たな廃棄物処理基本計画の策定に向け、真庭市廃棄物減量等推進審議会が市に答申書を提出しました。答申は、生ごみなどのバイオマスの資源化を主な柱として、資源化に主眼を置いた内容となっています。



1/15 鳥獣害対策について学ぶ

「鳥獣害対策」をテーマに、真庭いきいき農林業者のつどいが久世エスパセンターで開かれました。新規就農者への激励や活動事例発表、鳥獣害対策についての講演が行われ、参加者は真剣に耳を傾けていました。



市長室から
こんにちは!

豊かな想像力をつけよう

昨年12月の新聞に、大阪市で路上に置かれていた直径30cm、高さ12cmの円筒型ブロックにバイクが接触して転倒し、運転していた男性が死亡し、ブロックを置いたとして中学2年生が補導されたという記事が載っていました。その生徒は、「大騒ぎになるのが見たかった。人が死ぬとは思っていなかった」とのことです。なんという惨い事件でしょうか。この年齢で、場合によっては人が死ぬということが想像できなかったのかと残念でなりません。この生徒は、どのような育ち方をしたのでしょうか。たぶん、読書に親しむとか、家庭内で楽しい会話があるとか、想像力を豊かにするような環境で育っていないのではないのでしょうか。即反応するテレビやネットでは豊かな想像力はあまり育たないのではないのでしょうか？

このように一生傷を持って生きなければならない不幸な子どもを作らないように、想像力の豊かな子を育てる努力をしようではありませんか。そのためにも、大人も想像力や思考力を生涯にわたり鍛え続ける見本を示さなければなりません。



真庭高校久世校地で行われた試写会

真庭市のプロモーションビデオが完成しました。多彩で豊かな真庭ライフスタイルをイメージしており、森・人・宝といった資源を描く全3編で構成。12月24日には真庭高校、1月8日には勝山高校で試写会を行いました。生徒からは「真庭の良いところを再発見できた」「知らなかったこともあり見応えがあった」といった感想もいただきました。ビデオは今後、さまざまな場面で市のPRに活用していきます。

真庭市のプロモーションビデオ完成
真庭の魅力と価値をPR



子どもから大人までの食育について語られた講演

1月17日、勝山文化センターで「まにわ食育・健康まつり」が開かれました。真庭市内で食育や健康づくりに携わる団体でつくるまにわ食育・健康まつり実行委員会が、食と健康について考えるきっかけにしておうと毎年開き、今回で7回目。それぞれの団体が活動内容の展示や体験コーナーで紹介したほか、食育絵画、食育川柳、健康づくりチャレンジなどの表彰のほか、食育に関する講演会が行われました。

まにわ食育・健康まつり
食と健康を考える